

計画変更の結果、狙った以上に好天に恵まれた

月山、湯殿山

本来は4月27～29日で、月山經由で行人小屋へ行くとともに、湯殿山を日帰りするはずだった。しかし、27日の予報が悪く、無理して行っても無駄との判断から、27日はのんびり出て、西川道の駅でお世話になった。ここは温泉もついている。夜はやはり雨。月山の駐車場に行こうとして戻って来た人によれば、上は雪だったとのこと。安心して雨音を聴きながら宴会。

【日程】

2019年4月27日(土)～
29日(月)

【メンバー】

古野(Ｌ)、鈴木、辻田

【地形図】

月山、湯殿山

【記】鈴木、辻田

4月28日(日)：快晴

朝、姥沢の駐車場が満車にならないかを心配しながら登って行っただが、まったく余裕だった。途中ノーマルタイヤの車もいた。書いてあるでしょ、「無理だつて」。

リフトの券を買おうとしたら、前日の雨雪が凍結してしばらく動かないとのこと。ならば歩いて行くかと少し行き始めたら、動きだした。山頂駅について検討の結果、行人小屋へは行かないこととし、鈴木・辻田で月山山頂まで。古野さんはスキー場で遊び、駐車場で待機することに。いつものトラバースルートを行き、去年連休でも雪がついていなかった付近に近づくと、だんだん雪が固くなってきた。歩きの皆さんはアイゼンを付け、上からスキーで滑り降りてくる人の音は、アイスバーンを横滑りする音のみ。クトーも効かなくなってきたので、途中でスキーをデポして藪っぽい雪のやわらかいところから登る。斜度もゆるくなってきて、神社までもう少しのところ、カリカリの面が多くなり、初めての辻田さんには気の毒だったが、戻ることを選択した。デポ地に戻り、カリカリ斜面と、長いトラバースの滑りでスキー場へ戻り駐車場で古野さんと合流。

しばらく車で下りた、去年も幕営したところで、明るいうちから宴会へ。山頂付近の状態から、行人小屋へ滑り降りるのはかなりの覚悟が必要だったと思う。

4月29日(月)：快晴

テントを撤収して出発。真っ青な空の下、雪を眩しく感じながら、鳥のさえずりを聞きつつ、緩やかに登っていく。先導する、湯殿山は何度目かの古野さんの背中には迷いが見られなかったが、山頂まで続く尾根に取りつくまでのルートは緩やかで細かなアップダウンもあり地形から位置をつかみにくいと感じた。登っていると汗ばんでくる温かさで、さすがにクマも冬眠から覚めたらしく、標高930m付近でまだ新しい足跡を見つける。標高1,000m強から山頂までは尾根をひたすら登る。トラバースしながら進んだ標高1,250～1,350mあたりの急傾斜は雪がグサグサしていて少し登りにくいと感じたが、それ以外は難なく登れた。クトーも使わずに済んだ。

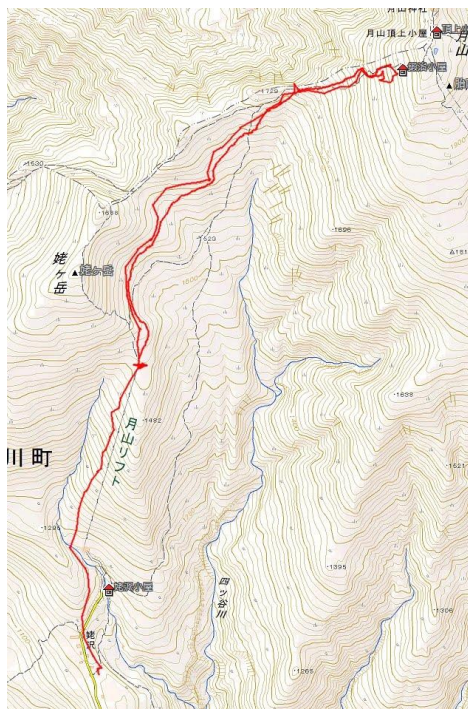
山頂からは360度見渡せ、朝日連峰や鳥海山が美しかった。山頂には月山スキー場のリフトを利用して姥ヶ岳經由でやってきたツアーらしきグループもいた。一昨日に雪が降ったものの、昨日も人が入っていたようだし、新雪はもう食べられてしまっているかなと思っていたら、斜面を選べば新雪はしっかり残っていて、存分に楽しめた。雪質はザラメの手前で、均一で、滑りやすかった。斜度がなくなるブス沼のあたりからは、登り返さないで済むように位置をこまめに確認しつつ下る。登りでも感じたが、下りでも地形が読みにくいと同じことを思った。

駐車場に到着し、地元民にしか知られていないだろう温泉と、古野さんと鈴木さん馴染みの山菜屋に寄り、この辺りではよく出される肉そばを食し、帰路に就いた。

【行程】

4/28 月山スキー場チケット売り場 (8:00/8:30)～リフト山頂駅 (9:30/10:30) ～標高1,898m (12:46)～リフト山頂駅 (13:40/14:00) ～駐車場(14:25)

4/29 駐車場 (6:40)～標高1,070m (9:00/9:15) ～標高1,360m (10:14/24)～湯殿山山頂 (10:50/11:10) ～駐車場(12:30)



月山 GPS 軌跡



湯殿山 GPS 軌跡



湯殿山山頂